

中期経営計画「New Stage 2011～元気よく～」

当行は、目指す銀行像の実現に向け、平成23年4月から平成26年3月までの3年間を計画期間とする中期経営計画「New Stage 2011～元気よく～」を策定しました。

西日本シティ銀行が目指す銀行像

国内トップレベルのサービスを地元で提供し
お客さまとともに栄える九州No.1バンク

国内トップレベルのサービス

これまで、国際業務ソリューションといった専門的な分野で、地銀初、九州地銀初の先進的な取組みを行ってきました。今後もこうした取組みを継続し、また、全職員がそれぞれの持ち場で高いレベルを追求して、他の地銀との差別化を図ります。

地元で提供

地域の繁栄と当行の繁栄は不可分であるとの認識のもと、地元で、地元の立場に立ってサービスを提供し、メガバンク・外資系金融機関との差別化を図ります。

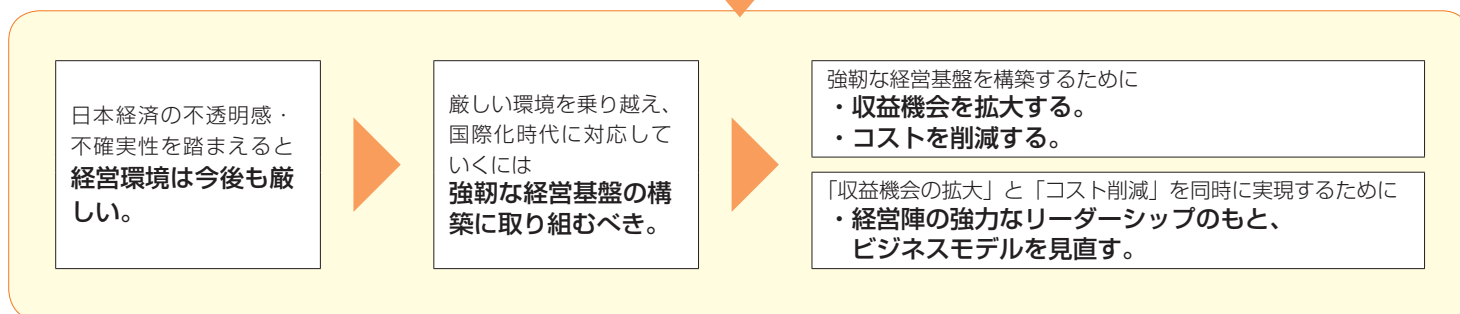
この2つの差別化戦略により、地域との一体的な成長を通じて「お客さまとともに栄える九州No.1バンク」を実現します。

計画策定に当たっては、まず現下の環境認識に基づき、当行が進むべき方向性を考えました。

環境認識

| | |
|------------------------------|---|
| <p>日本経済は不透明感・不確実性が増している。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 労働人口の減少が見込まれ、日本の潜在成長力は低い。 (潜在成長力=資本・労働力・生産性をフル利用して得られるGDPの成長力) ○ 経済のグローバル化により、日本経済・地方経済は海外の経済情勢の影響を受ける。 ○ 財政再建の遅れと成長力の低さから、国の借金問題がさらに悪化し、金利リスクが高まることが懸念される。 |
| <p>九州のポテンシャルは高い。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 九州新幹線鹿児島ルートの中線開通と駅ビル「JR博多シティ」の開業により、様々な面で経済効果が見込まれる。 ○ 高い経済成長が期待されるアジアに近く、歴史的にも交流が深い。 ○ 東日本大震災からの復興は、日本全体で取り組むべき喫緊の課題。そのなかで、製造拠点・農業生産地等として九州が果たす役割は大きい。 |

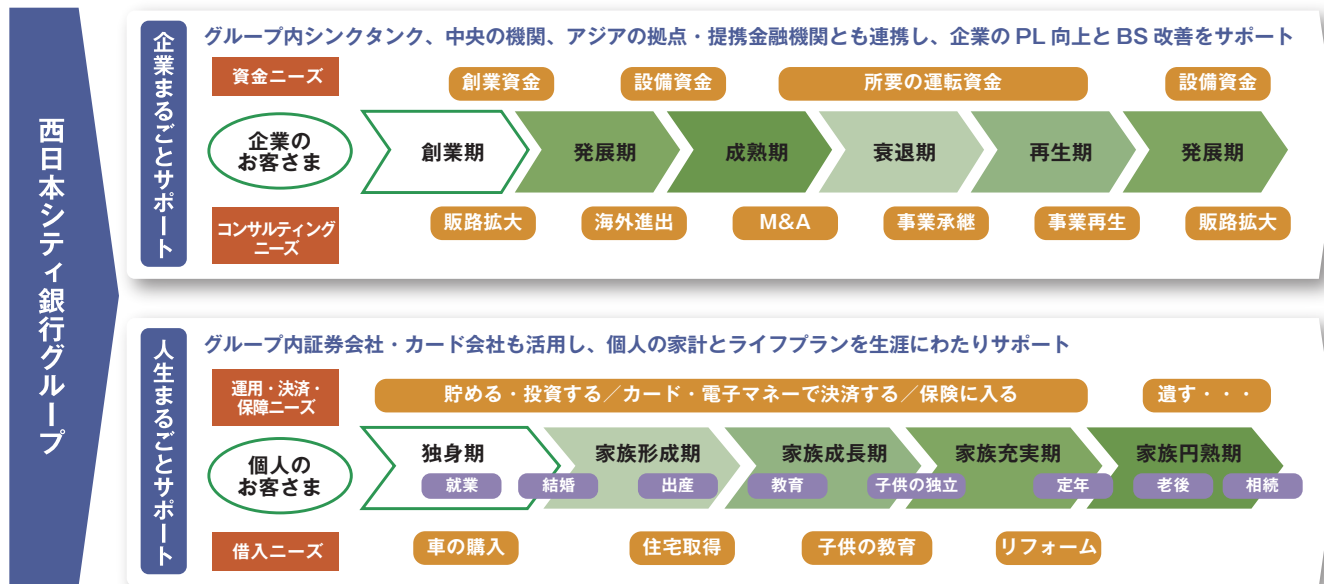
今後の進むべき方向性



進むべき方向性をベースとした計画のコンセプトは、「時代の変化に対応した『総合金融サービス業』への進化」と「徹底した生産性向上」の2つです。

時代の変化に対応した“総合金融サービス業”への進化

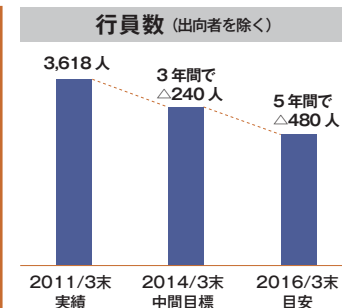
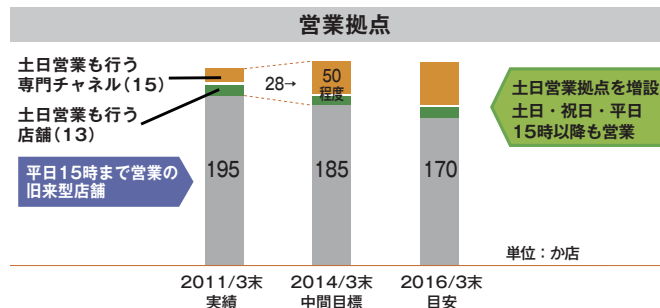
～お客様のライフステージから生じる様々なニーズに対し、お客さま目線に立った最適なサービスを提供～



徹底した生産性向上

～サービス向上と経営合理化の両立により生産性を改善し、強靱な経営基盤を構築～

土日営業拠点を増設しお客さまの利便性を高める一方で、旧来型店舗の統廃合を進め、生産性を向上させます。また、人員の効率化を進め、コスト削減を断行します。



「地域の活性化なくして地銀の将来なし」との認識に立ち、金融面以外からも地域の発展に貢献します。

| | |
|---------|---|
| 地場産業育成 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 地元企業の成長分野への新規参入を側面から支援します。 ○ 高齢化の進展により地元企業が直面する事業承継やM&A等に積極的に関与します。 ○ 積極的な産官学連携を継続し、「学」の優れた技術・ノウハウを地場産業発展に取り込みます。 |
| 環境配慮 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 環境負荷軽減に取り組む企業を支援するとともに、当行自身も環境にやさしい業務運営を実施し、環境に配慮した取組みにおいて地銀トップレベルを目指します。 |
| 知的貢献 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 当行及び各界トップによる質の高い講演会や金融知識の普及活動など、地域社会と次世代を担う青少年等への知的貢献を継続します。 |
| 歴史・文化活動 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 地元根付く歴史・文化活動は地方銀行のインフラの一部と位置づけ、当行の特長である歴史・文化活動への取組みを継続し、豊かな地域社会の実現に貢献します。 |